

令和4年度インテリアプランナー試験 学 科 試 験

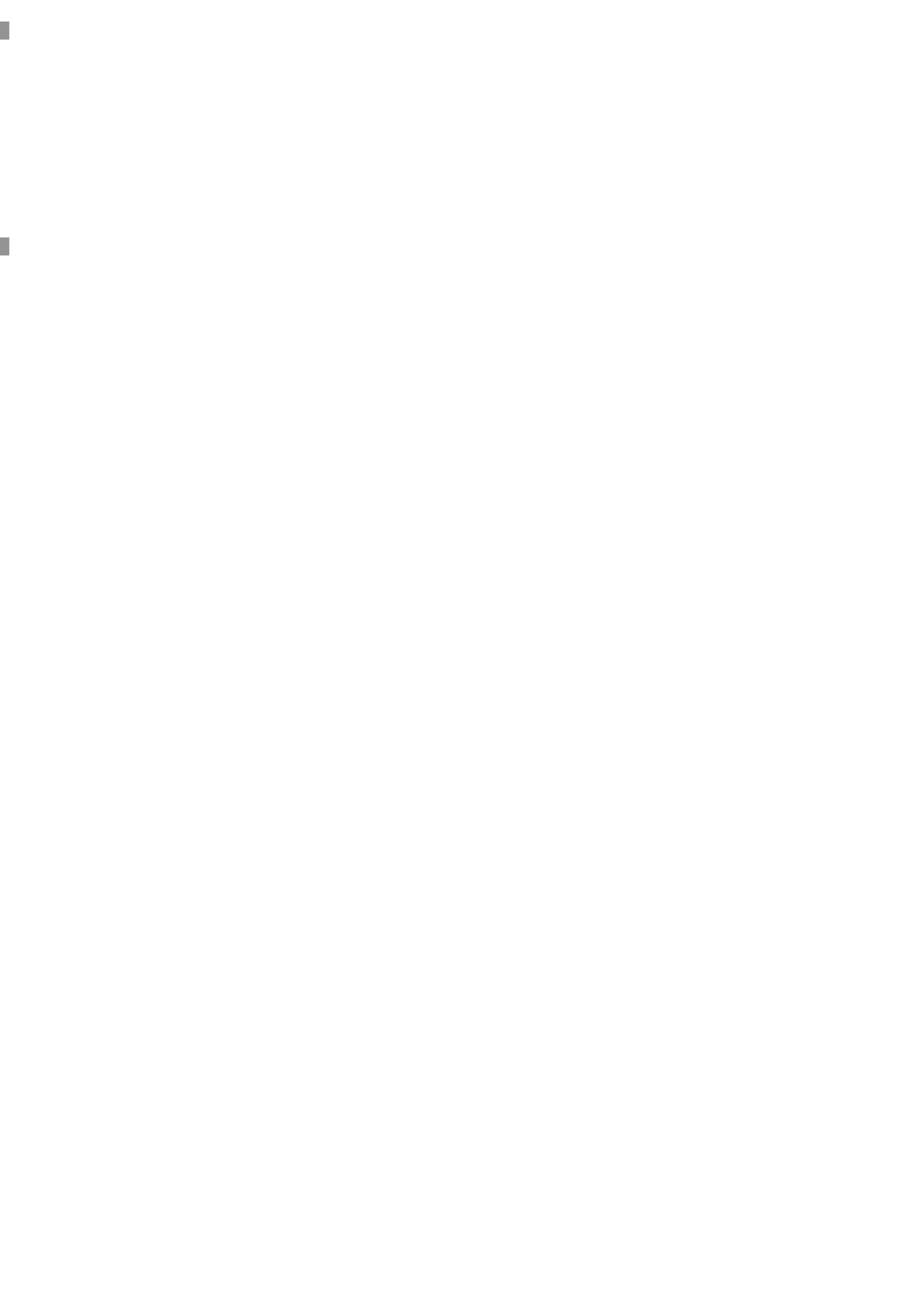
試 験 地	受 験 番 号	氏 名
	—	

問 題 集

次の注意事項及び答案用紙の注意事項をよく読んでから始めて下さい。

〔注意事項〕

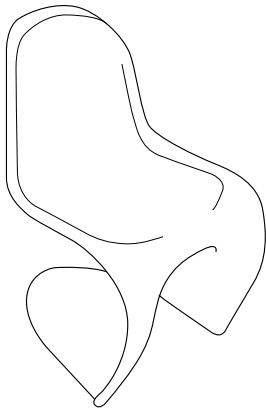
1. この問題集は、表紙を含めて**10枚**になっています。
2. この問題集は、計算等に使用しても差しつかえありません。
3. 問題は、全て**四肢択一式**です。
4. **解答は、各問題とも一つだけ答案用紙の解答欄に**所定の要領ではっきりとマークして下さい。
5. 解答に当たっての留意事項は、下記の(1)～(3)のとおりです。
 - (1)適用すべき法令については、**令和4年1月1日**現在において施行されているものとします。
 - (2)建築基準法令に定める「構造方法等の認定」、「耐火性能検証法」、「防火区画検証法」、「区画避難安全検証法」、「階避難安全検証法」及び「全館避難安全検証法」の適用については、問題の文章中に特に記述がない場合にあつては**考慮しないもの**とします。
 - (3)地方公共団体の条例については、**考慮しないもの**とします。
6. この問題集については、**試験終了まで試験室に在室した者に限り、持ち帰りを認めます。**
(中途退出者については、持ち帰りを禁止します。)



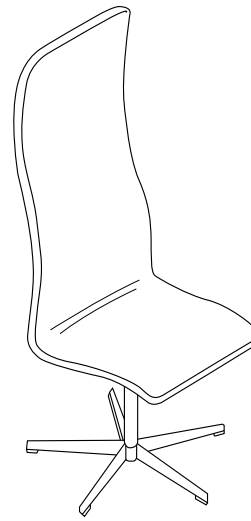
〔No. 1〕 近代の芸術運動とそれに関係する人物名との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. デ・スタイル ————— ヘリット・トーマス・リートフェルト (Gerrit Thomas Rietveld)
2. 未来派 ————— フィリッポ・トマーズ・マリネッティ (Filippo Tommaso Marinetti)
3. ゼツェッション ————— オットー・ヴァーグナー (Otto Wagner)
4. アール・ヌーヴォー — ウィリアム・モリス (William Morris)

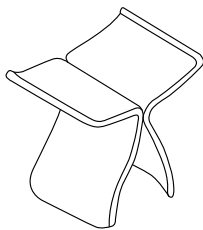
〔No. 2〕 図に示す椅子とその作家名との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。



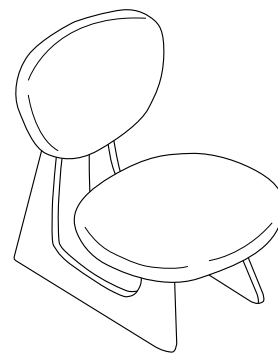
1. ヴェルナー・パントン
(Verner Panton)



2. マリオ・ベリーニ
(Mario Bellini)



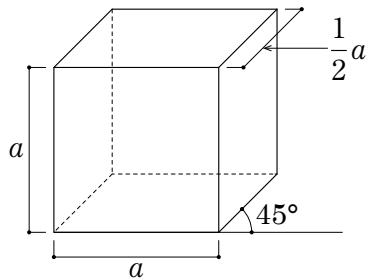
3. 柳宗理



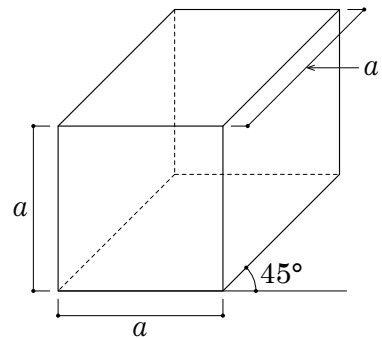
4. 長大作

〔No. 3〕 投影図とその名称との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

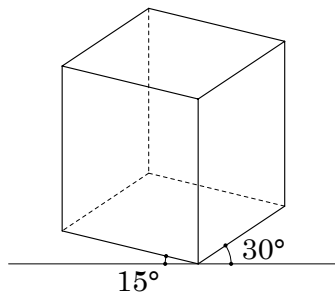
1. キャビネット投影図



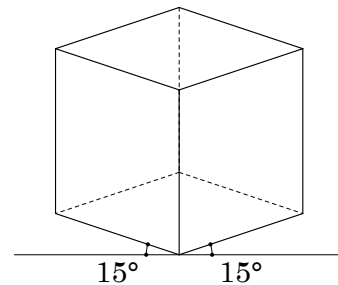
2. カバリエ投影図



3. アイソメトリック投影図



4. ダイメトリック投影図



〔No. 4〕 建築計画に関する用語とその説明との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. プロクセミクス ————— 文化に根ざした人間の空間行動の研究領域
2. パーソナルスペース ————— 他人を入れさせたくない見えない領域
3. モデュラーコーディネーション ——— 建築と構成材の寸法関係の調整
4. ソシオペタル ————— 人間どうしの交流をさまたげるデザイン

〔No. 5〕 インテリアの寸法に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 成人が立位の状態でかがまないで収納できるように、収納棚の最下段の高さを、人の身長
の20%とした。
2. 成人が使用するベッドの幅を、980 mmとした。
3. 高さ900 mmのバーカウンター面と、ハイスツールの座席面との高さの差を、300 mmとした。
4. 事務用机の高さを、人の身長
の40%とした。

〔No. 6〕 車椅子使用者に配慮した計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. トイレブースの出入口の有効幅を、800 mmとした。
2. 図書館のサービスカウンターにおいて、その下部スペースの奥行きを300 mmとした。
3. 座位変換型の電動車椅子を360度回転可能にするため、通路上に直径1,800 mmの円が内接するスペースを設けた。
4. 収納棚上端の高さを、床面から1,500 mmとした。

〔No. 7〕 省エネルギーに配慮した計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. ブラインドは、窓の室外側に設けるより窓の室内側に設けるほうが、日射熱の遮蔽効果が大きい。
2. 太陽熱利用のダイレクトゲイン方式とは、窓から入射する日射熱を直接、床や壁に蓄熱し、夜間時等に放熱させる方式である。
3. パッシブクーリングの原則は、日射熱の侵入を極力排除したうえで通風を図り、自然エネルギーの利用により室内空気を冷やすことである。
4. ライトシェルフは、窓の内外に設ける水平材により、水平材下部の窓面からの日射を遮蔽しつつ、水平材で反射させた自然光を上部の窓面から室内に導く採光手法である。

〔No. 8〕 室内の空気環境に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. シックハウス症候群の原因の一つとされる新しい家具からのホルムアルデヒドの発散は、温度・湿度が低いほど大きくなる。
2. 換気回数とは、室の1時間当たりの換気量を室容積で除した値である。
3. 居室において、二酸化炭素の濃度を基準として必要換気量を計算する場合、一般に、二酸化炭素の許容濃度は0.1% (1,000 ppm)である。
4. 汚染質が発生している室における必要換気量は、汚染質の発生量が同じ場合、その室の容積の大小によって変化しない。

〔N o. 9〕 室内の音環境に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 建築物の床衝撃音遮断性能の等級におけるLr-60は、Lr-50に比べて床衝撃音の遮断性能が低い。
2. 同じ厚さの一重壁の音響透過損失は、一般に、壁体の単位面積当たりの質量が大きいほど大きい。
3. 建築物の室間音圧レベル差の遮音等級におけるDr-60は、Dr-50に比べて遮音性能が低い。
4. 軽量床衝撃音への対策として、カーペットや畳などの緩衝性の材料を用いることは効果的である。

〔N o. 10〕 色彩に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. マンセル色立体では、中心軸に近いほど彩度の低い色である。
2. 床や壁などの色彩計画において、一般に、色見本よりも実際に施工された大きな面積のほうが、明度・彩度ともに低く見える。
3. マンセル表色系においては、有彩色を5R4/14のように表現し、5Rが色相、4が明度、14が彩度を示している。
4. 演色評価数は、ある光源の下での色の見え方が、基準光の下での色の見え方に近いほど大きくなる。

〔N o. 11〕 空気調和設備の省エネルギー対策に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. CO₂濃度制御は、室内における酸素の設定濃度に見合う新鮮外気のみを取り入れ、外気負荷の低減を図るシステムである。
2. 変风量方式(VAV方式)は、部屋の空調負荷に応じて給気量を調整することにより、部屋の温度を適切に調節しながら、冷風または温風を送る送風機動力も低減する空調方式である。
3. ナイトパーズは、冷房負荷を低減するために、外気温度が室内温度より低い夜間に外気を導入するシステムである。
4. フリークーリングは、冬期等に冷凍機の運転を停止して、低温外気との熱交換で得られる冷水を、空調の冷熱源として利用するシステムである。

〔N o. 12〕 防災設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 閉鎖型スプリンクラー設備は、火災を自動的に感知し、散水して消火する設備である。
2. ドレンチャー設備は、水幕によって延焼を防止する防火設備である。
3. 連結送水管は、消防ポンプ自動車から送水し、消防隊員が火災の起こっている階等にある放水口にホース・ノズルを接続して消火活動を行うための設備である。
4. 自動火災報知設備の煙感知器は、感知器周囲の温度が一定の温度以上になったときに作動する装置である。

〔N o. 13〕 床に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 東立て床は、木造軸組工法の1階に用いる床組で、東石の上に東を立てて根太を渡しかけ、その上に大引をかけて床を張る床組である。
2. 梁床とは、木造軸組工法の2階床組として多く用いられる形式で、床梁、根太などからなる。
3. 転ばし床は、東を用いず、土間コンクリートなどの上に直接根太又は大引を敷く床組である。
4. 組床は、大梁・小梁・根太によって床を支える床組である。

〔N o. 14〕 室内の壁面におけるせっこうボードの施工方法に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 開口部回りの隅角部の動きによるひび割れを防止するため、コーナーボードを取り付けた。
2. コンクリート下地に、せっこう系接着剤をだんご状に塗り付け、せっこうボードを直張りした。
3. せっこうボードの重ね張りをを行う場合、上張りのジョイント位置と下張りのジョイント位置が同じにならないようにした。
4. 鋼製下地に、せっこうボード張りをを行う場合、せっこうボード釘を用いて取り付けた。

〔N o. 15〕 木造住宅の内装における壁、床等の取合い部分と、その部分に用いられる部材との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 壁と天井 ————— 回り縁
2. 壁と床 ————— 幅木
3. 壁と窓下枠の板材 ————— 笠木
4. 真壁と「床の間」の地板 ————— ぞうきんずり 雑巾摺

〔N o. 16〕 間仕切に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. J I S規格において、可動間仕切は、分解、組立又は移設して再使用することができる間仕切である。
2. スタッド式可動間仕切は、パネル式に比べて、目地を少なくすることができる。
3. スタッド式可動間仕切は、間柱と間柱との間にパネル、ガラス、建具をはめ込む方式である。
4. パネル式可動間仕切は、天井や床にレールを設け、これらの間にパネルをはめ込む方式である。

〔N o. 17〕 建具に関する用語とその説明との組合せとして、**最も不適當なもの**は、次のうちどれか。

1. 額縁 ————— 窓や出入口の枠と壁仕上げ材料の納まりのために、枠回りに取り付けられる化粧材
2. 箱錠のバックセット —— 箱錠のフロント面からノブやレバーハンドルの回転中心、あるいはシリンダーの外筒の中心までの長さ
3. ピボットヒンジ ————— 開き戸に取り付ける軸吊金物で、自動閉鎖機構を床に埋め込んだもの
4. フラッシュ戸 ————— 下地骨を組み、その両面を平らな面材で張り上げた構造の戸

〔N o. 18〕 ブラインドに関する次の記述のうち、**最も不適當なもの**はどれか。

1. パーチカルブラインドは、縦長の窓、幅の広い窓、曲面をもつ窓に適している。
2. ベネシャンブラインドは、障子に比べて断熱性に優れている。
3. ベネシャンブラインドは、太陽高度の変化に応じて直接光を防ぎながら、明るさを調整することができる。
4. 暗幕用のブラインドは、ブラインドの両側と下部をフレームで囲い、スラットの重ねを大きくしたものである。

〔N o. 19〕 防火壁装材料に関する次の記述のうち、**最も不適當なもの**はどれか。

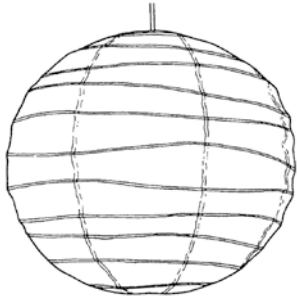
1. 防火壁装材料とは、壁紙のみによって得られた防火性能により、国土交通大臣から認定されたものをいう。
2. 防火壁装材料の大臣認定を取得していることの証明として、「認定番号」を有することが必要である。
3. 防火壁装材料は、ガス有害性試験に合格することが求められている。
4. 不燃材料、準不燃材料及び難燃材料の区別は、材料コードにより確認することができる。

〔N o. 20〕 家具金物に関する次の記述のうち、**最も不適當なもの**はどれか。

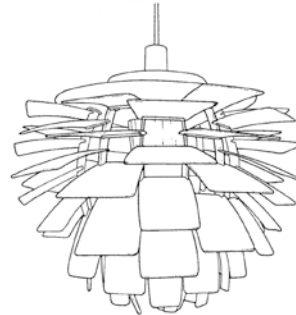
1. 引出しの動きを円滑にするために、フラップステーを取り付けた。
2. キッチン吊戸棚に、マグネットラッチを取り付けたので、取手は取り付けなかった。
3. 地震時に吊戸棚からものが落下しないように、耐震ラッチを取り付けた。
4. 床の不陸に対応するため、机の脚の端部にアジャスターを取り付けた。

[No. 21] 図に示す照明器具とその作家名との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

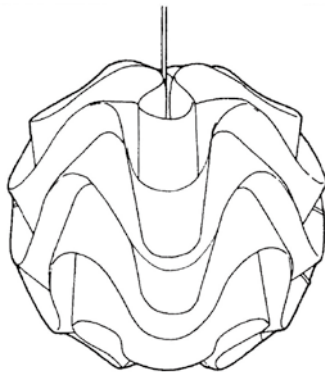
1. イサム・ノグチ
(Isamu Noguchi)



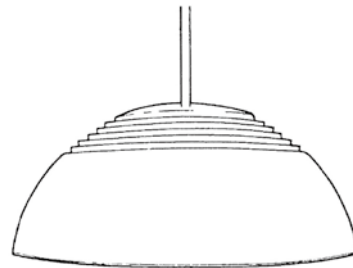
2. フランク・ロイド・ライト
(Frank Lloyd Wright)



3. ポール・クリスチャンセン
(Poul Christiansen)



4. アルネ・ヤコブセン
(Arne Jacobsen)



[No. 22] 設備機器に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 強制同時給排気型のレンジフードファンは、給気及び排気を同時に行うことから、室内外の気圧の差が生じにくい機器である。
2. CO₂冷媒を用いたヒートポンプ給湯機は、一般に、大気から熱を採り、高温の湯を貯湯して給湯する機器である。
3. 密閉式ガス機器は、燃焼用空気を屋内から採り、燃焼ガスを屋外に排出する方式の機器である。
4. ディスポーザは、台所流し等の排水口に取り付け、生ごみを水とともに破碎し、排水管に流す機器である。

〔N o. 23〕 煙制御に関する次の記述のうち、防火上、最も不適当なものはどれか。

1. 防火区画の壁を貫通する排煙ダクトにおいて、その貫通部に近接して防火ダンパーを設置した。
2. 機械排煙の排煙機を、排煙系統の最上部に設けた。
3. 避難や消防活動のために、長時間の排煙が必要な室を自然排煙方式とした。
4. 廊下における機械排煙の排煙口を、避難階段の出入口の付近に設置した。

〔N o. 24〕 建築物の避難計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 特別避難階段の付室において、避難時間を短縮するため、廊下から付室への入口と付室から階段室への入口を近づけるように配置した。
2. 安全区画となる廊下において、居室との間を不燃材料の間仕切壁で区画し、自動閉鎖機構のある扉を設けた。
3. 高層建築物において、地上階と地階の直通階段を分離して別階段とした。
4. 吹抜け周りの各階の防火防煙シャッターの降下位置は、吹抜け周りに設置した転落防止用の手すりより吹抜け側とした。

〔N o. 25〕 インテリア工事の施工管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. フラッシュ戸は、破損・ねじれ・ひずみを生じることのないように、平積みにして保管した。
2. 板ガラスは、振動等による倒れを防止するため、屋内に平置きにして保管した。
3. 合成高分子系の床シートは、乾燥した室内に直射日光を避けて縦置きにして保管した。
4. 陶磁器質タイルは、雨露の当たらない場所に保管し、損傷を与えないように運搬した。

〔N o. 26〕 インテリア工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. せっこうボード突付けジョイント部の目地処理を、テーパーボードのテーパー部では幅 100 ～ 150 mm の範囲で行った。
2. 床シートの接合部を熱溶接工法によって処理するので、圧着する力がかかりやすいように、接合部に床シート厚の $\frac{2}{3}$ の深さのV字形の溝を設けた。
3. カーペットのグリッパー工法の下敷き用フェルトは、グリッパーの厚さと同等か、やや厚いものを用いた。
4. 薄手の壁紙を重ね張りする際に、陰影の生じない方向に 10 mm 程度重ねて張り付けた。





〔N o. 27〕 インテリアの塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 合成樹脂エマルション系の材料は、低温時には凍結しないように保管した。
2. 塗装場所の気温が5℃未満、相対湿度が85%以上であったので、塗装作業は行わなかった。
3. コンクリートの素地は、合成樹脂調合ペイント塗りとした。
4. 木質系素地面は、透明塗装とするため1液形油変性ポリウレタンワニス塗りを用いた。

〔N o. 28〕 木工事にに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 木材の含水率は、造作材の場合、工事現場搬入時で15%以下であることが望ましい。
2. 木製かまち戸のガラスの固定に用いる押縁は、ほぞ差しとする。
3. 下地材及び造作材に用いる釘の長さは、原則として、打ち付ける板厚の2.5倍以上とする。
4. 普通合板の表面材に用いられる樹種には、ラワンやシナなどがある。

〔N o. 29〕 J I Sにおける電気設備の配線用図記号とその名称との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1.  —— スピーカ
2.  —— 警報ベル
3.  —— 誘導灯
4.  —— 床付電話用アウトレット

〔N o. 30〕 インテリアの各種工事とそれに用いる施工機器・工具との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 塗装工事 —— スプレーガン
2. 左官工事 —— ヴィブラート
3. カーペット工事 —— ニーキッカー
4. 石工事 —— ダイヤモンド砥石

〔N o. 31〕 請負契約に関する次の記述のうち、民間(七会)連合協定「工事請負契約約款」(令和2(2020)年4月改正)に照らして、**最も不適当なものはどれか。**

1. 支給材料又は貸与品の受渡し期日は工程表によるものとし、その受渡し場所は、設計図書等に別段の定めのないときは工事現場とする。
2. 受注者は、契約を締結したのち速やかに請負代金内訳書及び工程表を発注者に、それぞれの写しを監理者に提出し、請負代金内訳書については監理者の確認を受ける。
3. 主任技術者(又は監理技術者もしくは監理技術者補佐)、専門技術者及び現場代理人は、これを兼ねることはできない。
4. 工事材料又は建築設備の機器の品質については、設計図書等の定めるところによるが、設計図書等にその品質が明示されていないものがあるときは、中等の品質のものとする。

〔N o. 32〕 石材の表面処理・仕上げとその特徴に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 花こう岩は、耐酸性・耐久性に乏しく、主にインテリアで用いられる。
2. インド砂岩は、数十ミリの厚さに割裂できるので、割はだの仕上げとしても用いられる。
3. 大理石は、本磨きにより平滑で光沢のある表面が得られ、石材本来の色や模様がでる。
4. 石灰岩は、地中の熱で変成して再結晶化すると、大理石になる。

〔N o. 33〕 木材及び木質材料に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. CLTは、日本農林規格(JAS)において「直交集成板」と呼ばれ、ひき板を繊維方向に並べて接着し、その繊維方向を互いに直角にして積層接着したものである。
2. 住宅の木材に防蟻効果があるクロルピリホスは、健康・安全面への配慮から現在では使用されていない。
3. 木材保護塗料(WP)は、樹脂及び着色顔料のほか、防腐、防カビ、防虫効果を有する薬剤を含むことを特徴としている。
4. MDFは、木材などの小片を主な原料として、接着剤を用いて成形熱圧した板であり、一般に、不燃材料として用いられる。

〔N o. 34〕 インテリア工事に用いる材料に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. ウレタン樹脂系塗床材は、一般に、耐摩耗性に優れている。
2. シーキングせっこうボードは、一般に、湿気のある屋内仕上げの下地に用いることができる。
3. 繊維強化セメント板は、一般に、防火性に優れている。
4. ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材は、一般に、透湿性が高い。

〔N o. 35〕 用語に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 床が地盤面下にある階で、床面から地盤面までの高さがその階の天井の高さの $\frac{1}{4}$ のものは「地階」である。
2. れんがは、「耐水材料」である。
3. 地上2階建ての住宅の1階から2階に通ずる屋内階段の過半の修繕は、「大規模の修繕」である。
4. レストランの調理室は、「居室」である。

〔N o. 36〕 内装の制限に関する次の記述のうち、建築基準法に適合しないものはどれか。ただし、居室については「制限を受ける窓その他の開口部を有しない居室」には該当しないものとし、火災が発生した場合に避難上支障のある高さまで煙又はガスの降下が生じない建築物の部分はないものとする。

1. 主要構造部を準耐火構造とした地上3階建て、延べ面積 500 m² の自動車車庫の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを準不燃材料とした。
2. 主要構造部を耐火構造とした地上3階建て、延べ面積 1,200 m² の劇場において、3階にある床面積の合計が 400 m² の客席の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを難燃材料とした。
3. 主要構造部を耐火構造とした地上3階建て、延べ面積 200 m² の一戸建て住宅において、1階に設ける火を使用する調理室の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを、不燃材料、準不燃材料及び難燃材料以外の材料とした。
4. 主要構造部を耐火構造とした平家建て、延べ面積 3,500 m² の学校において、教室の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを難燃材料とした。

〔N o. 37〕 防火区画に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。ただし、自動式のスプリンクラー設備等は設けていないものとする。

1. 主要構造部を耐火構造とした劇場の客席部分でその用途上やむを得ない場合においては、その床面積の合計にかかわらず、防火区画しなくてもよい。
2. 地上15階建ての共同住宅の15階部分で、当該階の床面積の合計が 300 m² のものは、原則として、床面積の合計 100 m² 以内ごとに防火区画しなければならない。
3. 吹抜きとなっている部分とその他の部分とを防火区画しなければならない場合においては、準耐火構造の床若しくは壁又は所定の防火設備で区画しなければならない。
4. 主要構造部を準耐火構造とした地上3階建て、延べ面積 200 m² の一戸建ての住宅は、1階から3階までの直通階段の部分とその他の部分とを防火区画しなければならない。

〔N o. 38〕 避難施設等に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 地上5階建て、延べ面積2,000 m²の物品販売業を営む店舗の昇降機の乗降のための乗降ロビーには、排煙設備を設けなければならない。
2. 病院の病室には、非常用の照明装置を設けなくてもよい。
3. 屋内に設ける避難階段の階段室には、窓その他の採光上有効な開口部又は予備電源を有する照明設備を設けなければならない。
4. 高等学校における生徒用の廊下で、両側に教室があるものの幅は、2.3 m以上としなければならない。

〔N o. 39〕 建築物の一般構造に関する次の記述のうち、建築基準法に適合しないものはどれか。

1. 有料老人ホームにおける床面積50 m²の入所者用娯楽室には、採光のための窓を設け、その採光に有効な部分の面積を6 m²とした。
2. 地上3階建ての事務所の1階から2階に通ずる屋内階段(直階段)について、その高さが3.5 mであったので、踊場を設けなかった。
3. 最下階の居室の床が木造である住宅の床について、床下をコンクリート等で覆わなかったので、直下の地面からその床の上面までの高さを40 cmとした。
4. ふすま、障子その他随時開放することができるもので仕切られた2室を、居室の換気の規定の適用において、1室とみなした。

〔N o. 40〕 建築設備に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 建築物(換気設備を設けるべき調理室等を除く。)に設ける自然換気設備の給気口は、居室の天井の高さの $\frac{1}{2}$ 以下の高さの位置に設け、常時外気に開放された構造としなければならない。
2. 主要構造部を耐火構造とした地上4階建て、延べ面積2,000 m²の百貨店(避難階は1階)の3階の売場には、非常用の照明装置を設けなければならない。
3. 共同住宅の各戸の界壁を貫通する給水管は、原則として、貫通する部分及び当該貫通する部分からそれぞれ両側に1 m以内の距離にある部分を不燃材料で造らなければならない。
4. 排煙設備を設けるべき飲食店は、床面積1,000 m²以内ごとに防煙壁で区画しなければならない。

〔N o. 41〕 防災に関する次の記述のうち、消防法上、誤っているものはどれか。

1. 地上4階建て(高さ12 m)の小学校で使用する暗幕は、防災物品でなくてもよい。
2. 地上2階建て(高さ8 m)の幼稚園で使用するカーテンは、防災物品でなければならない。
3. 平屋建て(高さ4 m)の老人デイサービスセンターで使用する布製のブラインドは、防災物品でなければならない。
4. 事務所ビルで使用するカーテンやじゅうたんは、ビルの高さにかかわらず防災物品でなくてもよい。

〔N o. 42〕 次の防火対象物の用途変更のうち、消防法上、原則として、従前の消防用設備等(消火器、避難器具その他消防法施行令で定めるものを除く。)で足りるものはどれか。

1. 共同住宅からホテルに変更
2. 戸建て住宅から消防法施行令別表第一(5)項イに該当する民泊に変更
3. 倉庫から美術館に変更
4. 作業場から飲食店に変更

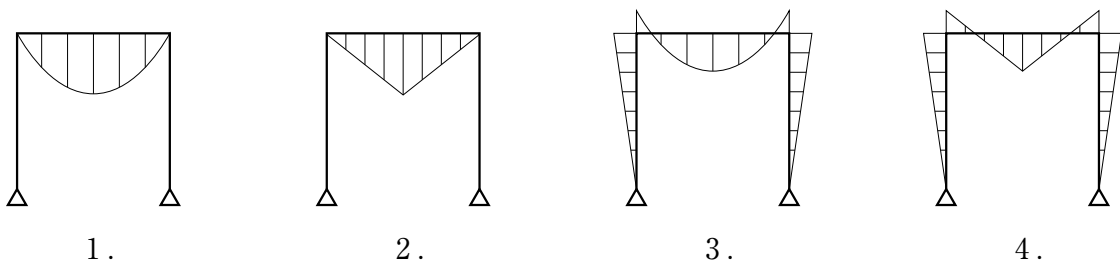
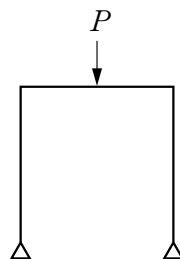
〔N o. 43〕 次の防火対象物のうち、消防法上、原則として、その規模にかかわらず自動火災報知設備の設置が義務付けられる用途に該当しないものはどれか。ただし、いずれも危険物の貯蔵及び取扱いは行わず、単独の用途に供されるものとし、避難階以外の階から避難階又は地上に直通する2以上の階段が設けられているものとする。

1. ホテル
2. カラオケボックス
3. 飲食店
4. 病院

[No. 44] 次の記述のうち、関係法令上、誤っているものはどれか。

1. 「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」では、特定建設資材を用いた建築物に係る増築の工事であって、当該工事に係る部分の床面積が 500 m^2 以上であるものの対象建設工事受注者又は自主施行者は、原則として、分別解体等をしなければならない。
2. 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」では、建築主等は、地上 10 階建て、延べ面積 $5,000 \text{ m}^2$ の共同住宅を新築しようとするときは、当該建築物を建築物移動等円滑化基準に適合させなければならない。
3. 「住宅の品質確保の促進等に関する法律」では、住宅を新築する建設工事の請負契約における^{かし}瑕疵担保責任に関する規定において、「住宅の構造耐力上主要な部分等」には、雨水の浸入を防止する部分が含まれる。
4. 「建設業法」では、建築一式工事以外の建設工事で、かつ工事 1 件の請負代金の額が 500 万円未満の工事のみを請け負うことを営業とする者は、建設業の許可を受けなくてもよい。

[No. 45] 図のような、梁の中央に集中荷重 P を受けるラーメンの曲げモーメント図として、正しいものは、次のうちどれか。ただし、曲げモーメントは、材の引張側に描くものとする。



〔N o. 46〕 建築物の構造計算に関する次の用語のうち、耐震設計との**関連性が最も低い**ものはどれか。

1. 固有周期
2. 偏心率
3. 外圧係数
4. 建築物の重量

〔N o. 47〕 コンクリート工事におけるコンクリートのひび割れ防止対策として、**最も不適当な**ものは、次のうちどれか。

1. コンクリートのスランプを大きくした。
2. コンクリートの単位水量を小さくした。
3. コンクリート打込み後、凝結前にコンクリート表面のタンピングを行った。
4. コンクリート打込み後、コンクリート表面をシートで覆い、コンクリートの養生を行った。

〔N o. 48〕 木造軸組工法における部材の接合箇所とその箇所に使用する接合金物との組合せとして、**最も不適当な**ものは、次のうちどれか。

1. 基礎と土台 ————— アンカーボルト
2. 引張りを受ける柱と土台 —— かね折り金物
3. 小屋梁と軒桁 ————— 羽子板ボルト
4. 垂木と軒桁 ————— ひねり金物

〔N o. 49〕 旅客施設に設けるサインの計画に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 視距離 10 mから視認するサインの計画において、サインの設置位置は仰角(水平からの見上げ角度)が10度を超えないようにすることが望ましい。
2. 視距離 1 mから視認するサインの計画において、一般に、立位の利用者と車椅子を使用する利用者の双方に配慮して、床面からサイン表示面の中心までの高さを 155 cm程度とすることが望ましい。
3. サインの色彩は、高齢者、弱視者、色覚障害者等に配慮して、「黄と白」、「赤と緑」等の色の組合せを用いないことが望ましい。
4. サインの種別には、場所の名称を示す「位置サイン」、特定の場所への方角を矢印表示等で示す「誘導サイン」、利用者が経路を選択するのに必要な情報を提供する「案内サイン」に大別される。

〔No. 50〕 建築計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. シティホテルにおいて、客室1室当たりの床面積は、シングルベッドルームを20 m²、ツインベッドルームを30 m²とした。
2. ホテルの一般客室を、車椅子利用者用客室へ改修するに当たり、二つの客室の間仕切壁を撤去して一室化し、客室内にスロープを設置し、客室全体の床の高さを、トイレ・浴室等の床の高さに合わせた。
3. 大規模量販店において、売場の通路幅は、主な通路を1.8 mとし、それ以外の通路を1 mとした。
4. 小学校の計画に当たり、インクルーシブ教育システム構築のため、障害のある児童と障害のない児童とが、交流及び共同学習できる施設とした。

